

かんわだより

1. エンゼルケアの進捗状況

緩和ケアチームではグリーンケアの一環として、エンゼルケアを推進してきました。第22、23回のセミナーで山口県エンゼルケア研究会の塩瀬先生に講演を頂き、エンゼルケアの啓蒙を行い、その際行ったアンケートの結果等から院内で統一したメイクボックスが必要とのことで、メイクボックスの購入に至りました。第30回のセミナーではそのメイクボックスの使用方法について実演を行い、周知を図りました。現在、メイクボックスは3階病棟で管理されており、使用が開始されています。

以下に実際にメイクボックスを使ってエンゼルケアを行った際の感想や意見を、裏面にメイクボックスの使用の手順、ポイントをまとめましたのでご参照ください。

ケアを行った感想・意見

- ・順番に使用していくので、手順がわかりやすく使用しやすい。
- ・今まで使用していた化粧道具よりも化粧のノリが良く、綺麗に見える。
- ・メイクボックスを使用することで、家族と一緒にケアが行いやすくなった。
- ・家族に参加してもらうことがグリーンケアに繋がり、そのことがスタッフに達成感や充足感をもたらしてくれたように感じた。
- ・メイク後は生きているようにも見え、家族の満足感も得られやすいと感じた。
- ・「メイクを行うことですごく綺麗になり、病院でこんなことまでしてくれるとは思わなかった。」と家族にとっても喜ばれた。

2. TOPICS

6月に行われた第17回日本緩和医療学会学術大会に参加しました。多職種が参加するため「人の話を聴く」という姿勢があり、年々会員が増えている、とても勢いのある学会です。日常診療から得られる経験には限りがありますが、出席することによって得られるものがとても多く、毎年参加したい学会です。(折田談)

10月に行われた第37回山口県緩和ケア研究会に参加しました。シンポジウムでは「在宅緩和」というテーマで、医師、看護師、薬剤師、MSW、ケアマネージャーがそれぞれの立場で講演を行い、その後ディスカッションを行いました。その話し合いの中では、県内の在宅緩和における一番の問題点は在宅緩和に関心のある医療関係者が少ないということでした。これからどのように啓蒙していくのか、緩和医療の課題のひとつであると思います。

第30回緩和ケアセミナーは「エンゼルメイクボックスを使用時のメイクの仕方」でした。多数の参加ありがとうございました。

メイクボックス使用手順



クレンジングをし、
マッサージをしながら
汚れを除去する。



保湿クリームを塗
る。



クリームファンデーションをすべて黒化粧皿に入れ、まぜる。
黄疸の強い人は黄色を多めにする。
血色の悪い人はピンクを多めにする。



フェイスパウダーを
空のケースに入れブ
ラシを使用して塗布
する。



パウダーファンデー
ションをすべて少し
ずつ空のケースに入
れてまぜる。

化粧を落ちにくくするため、パフで押さ
える。



パウダーチークをす
べて空のケースに入
れ、ブラシを使用し
て塗布する。

アイブローをする。



口紅を塗る。

POINT

- ・唇は乾燥するのが速いので保湿を保つためにもワセリンやグロスを使用した方が良い。
- ・目が閉じない方にはクレンジングの時に前額部とこめかみの所をマッサージする。
- ・口が開いている方には下顎をマッサージする。
- ・病院で化粧をする場合は少し赤いほうが良い。
- ・早めに体幹を冷やす(胸部・腹部など)。